第156回　IEC活動推進委員会　運営委員会
国際会議補助報告書

資料 No.	＜ＳＣ３Ｃ関係＞国際会議報告書
156-3／SC3C-①	ISO/IEC JWG11「機器・装置用図記号」葉山会議報告書 200600327－20060329
資料 No.	**＜ＳＣ３Ｄ関係＞国際会議報告書**
156-3／SC3D -①	SC3D／WG2「電子部品のデータ要素／辞書データモデリング」ロンドン会議報告書 20060522－20060524
資料 No.	**＜ＴＣ４０関係＞国際会議報告書**
156-3／TC40-①	TC40＆WGs 等「電子機器用ｺﾝﾃﾞﾝｻ及び抵抗器」済州島会議報告書 20060531－20060602
資料 No.	**＜ＴＣ４７関係＞国際会議報告書**
156-3／TC47-①	TC47/WG2「半導体／環境試験方法」ベルリン会議報告書 20060518－20060519
資料 No.	**＜ＴＣ４８関係＞国際会議報告書**
156-3／TC48-①	SC48B／WGs「電子機器用機構部品／コネクタ」スコッツデール会議報告書 20060509－20060511
資料 No.	**＜ＳＣ６２Ａ関係＞国際会議報告書**
156-3／SC62A -①	SC62A／JWG1「医用電子機器共通事項／リスクマネージメント」パリ会議報告書 20060424－20060427
156-3／SC62A -②	SC62A／JWG3「医用電子機器共通事項／ソフトウエア」パリ会議報告書 20060425－20060427
資料 No.	**＜ＳＣ６２Ｄ関係＞国際会議報告書**
156-3／SC62D -①	SC62D／MT16「医用電子機器／内視鏡機器」ロンドン会議報告書 20060516－20060519
156-3／SC62D -②	SC62D／MT17「医用電子機器／高周波手術器」ボルダー会議報告書 20060522－20060524
資料 No.	**＜ＴＣ８０関係＞国際会議報告書**
156-3／TC80 -①	TC80／WG7「舶用電子航法装置／電子海図表示装置」ニューポートビーチ会議報告書 20060510－20060513
156-3／TC80-②	TC80／WG8A「舶用電子航法装置／船舶自動識別装置」ハンブルグ会議報告書 20060410－20060413
156-3／TC80-③	TC80／WG14「舶用電子航法装置／基地局（航法支援 AIS）」コブレンツ会議報告書 20060424－20060428
資料 No.	**＜ＴＣ８７関係＞国際会議報告書**
156-3／TC87 -①	TC87「超音波」ニューオリンズ会議報告書 20060519－20060519
156-3／TC87 -②	TC87／WG6「超音波／超音波集束形トランスジューサ」ニューオリンズ会議報告書 20060517－20060518
156-3／TC87 -③	TC87／WG7「超音波／超音波手術器」ニューオリンズ会議報告書 20060515－20060516
156-3／TC87--④	TC87／WG8「超音波／超音波音場測定」ニューオリンズ会議報告書 20060517－20060518
156-3／TC87--⑤	TC87／WG9「超音波／パルスエコー診断装置」ニューオリンズ会議報告書 20060517－20060517
資料 No.	**＜ＴＣ１００関係＞国際会議報告書**
156-3／TC100-①	TC100／TA2「ｵｰﾃﾞｨｵ・ﾋﾞﾃﾞｵ及びﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱｼｽﾃﾑ・機器／カラーマネージメント」ヘルシンキ会議申請書 20060508－20060508

156-3／TC100-②	TC100／PT61606-3「ｵｰﾃﾞｨｵ･ﾋﾞﾃﾞｵ及びﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱｼｽﾃﾑ・機器／デジタルオーディオ測定方法（プロフェッショナル用途）」パリ会議申請書 20060521－20060521
156-3／TC100-③	TC100／MT61937-1「ｵｰﾃﾞｨｵ・ﾋﾞﾃﾞｵ及びﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱｼｽﾃﾑ・機器／圧縮デジタルオーディオインタフェース　パート１」パリ会議申請書 20060520－20060521
156-3／TC100-④	TC100／MT61937-2「ｵｰﾃﾞｨｵ・ﾋﾞﾃﾞｵ及びﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱｼｽﾃﾑ・機器／圧縮デジタルオーディオインタフェース」パリ会議申請書 20060520－20060521
156-3／TC100-⑤	TC100／MT60958-1「ｵｰﾃﾞｨｵ・ﾋﾞﾃﾞｵ及びﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱｼｽﾃﾑ・機器／デジタルオーディオインタフェース　パート１」パリ会議申請書 20060520－20060521

（社）電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3／SC3C-①（事務局記入）

様式 4

（事務局記載）　整理番号：　　　　　（半角）

提出日：　2006年 4月 6日

IEC国際会議出席報告書

TC/SC/TA担当委員名：　中村　祐二　　報告書作成者氏名：　中村　祐二　（会社名）東芝ソリューション（株）

会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC3C（半角）
ISO/IEC JWG 11	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	機器・装置用図記号
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006年 3月 27日 ～ 2006年 3月 29日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）葉山	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	日本	幹事国　英国（Co-convenor）	
参加国	3ヶ国、主な国名 英国、米国、日本		
日本出席者	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] 毛利元也(元 JEVC)、池田宏明（千葉大学）、中村　祐二（東芝ソリューション）、他10名（含･オブザーバー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

＊JWG11前ジュネーブ会議（2005-08）以降のIEC/SC 3C、ISO/TC 145/SC 3両組織の活動の確認：
・ISO 7000図記号DatabaseをIECの方式に準じて推進するとの判断があった（ISO/TMB）。
・IECにおけるDatabaseを活用した文書審議ProcedureがIEC/SMBで承認され、実行に入った報告。
＊共通データベースの構築：
・IEC 60417とISO7000共通データベースの図記号検索用Classificationに関する審議を行い、ISO/TC 145/SC 3から提案された構造を合意。
・Database を活用した文書審議に必要な新たなTerminology（用語）を審議。
＊図記号原則（Part-1）の改訂内容審議：
・IEC 80416-1 Ed.1:2001 Basic principles for graphical symbols for use on equipment - Part-1: Creation of symbol originals　（図記号創作の原則）改訂に対する各国コメント文書ISO/TC145 N484と3C/1410/CCをもとに審議がおこなわれた。一部に改定反対の意見(独)もあったが、構造や語句の整合化が計られ理解し易いものに改訂されCDV (DIS)の発行が決まった。
［討議のポイント］
・最大の論点「登録図記号（□75mm内に描く線の太さの規定）」に関して下記結論を得た。
これまでは、“2mmを下限とし、4mmを超えない太さとする。2mmでの登録を推奨する”であったが、
⇒今回の討議で“2mmを下限とし、一般的には4mmの太さを推奨する”に集約した。
・これまでは、国際標準内の統一性を保つため、2mmを基準としてきたが、ISOの分野を中心として、実際の製品に使われている4mm前後を主体とした方が、製品実用時に太さを調整する必要が無くなる･･･という論拠が賛同を得た。込み入った部分は、4mm～2mmの線を使用することも可能。
・この会議で、JEITA図記号専門委員会による「機器に使用されている図記号の線の太さに関する調査結果」のコピーを出席各国委員に配布し、日本国内各社における使用実態と、IEC/ISO国際標準図記号に対する日本の真剣な取り組みの現状をアピールした。
・その他：“Negation”（Do not, Cancellationなど）：ISO/TC145/SC 2 (Safety colours and safety signs)で規定されている“丸に斜め線”を機器には使用しない旨規定されているが、現標準に多く存在しており、「安全」及び禁止などを含めた規定を明確にする活動を別途推進する。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11（三井住友海上別館ビル）
Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06新版様式)

（社）電子情報技術産業協会　　　　運営委員会・資料番号：156-3／SC3D-①　（事務局記入）　様式 4
IEC 活動推進委員会　御中　　　　　　　　　　　　　提出日：2006 年 6 月 5 日

（報告者記載）整理番号：仮 3D-01A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　南野　典子　　報告書作成者氏名：　南野　典子　（会社名）（株）東芝

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC3D (半角)
SC3D/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子部品のデータ要素
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006 年 5 月 22 日 ～ 2006 年 5 月 24 日		
開催場所	（国名）イギリス	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Addie Dijkstra	幹事国　オランダ	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 蘭、英、独、日、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○佐藤　一巳（ソニー）、○南野　典子（東芝）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

電子・電気部品のデータベースの共通辞書（IEC 辞書）およびそのデータモデルを定めた規格である IEC61360 の審議を行うために、IEC/SC3D/WG2 に参加した。今回の主要な議題とその成果は以下の通りである。

1．ISO と共通であるデータモデルのうち IEC 適用内容を定めた Part1 の CD 案：
日本からのコメントおよび会議での結果を反映させた CD 案を幹事が作成し、6 月に CD の投票に回ることになった。

2．IEC 辞書のメンテナンスに関する二つの DC 文書の審議：
3D/146/DC：辞書メンテナンスを行う VT（Validation Team）のタスクに関する文書。日本から、「個別メンテナンスを参照して辞書メンテナンスを行うという文言を追加すべき」という指摘を行った。会議では改善することで合意した。
3D/145/DC：個別メンテナンスプロシージャの内容。内容についての協議を行った。日本からのいくつかの指摘事項はほぼ全てが受理された。継続審議となったのは、次の点。CR（辞書の各アイテム＝分類や諸元に対する変更要求）にも、通常のアイテムの識別子（コードとバージョンの組み合わせ、変更要求の場合にはバージョンを一つ上げたものが識別子として与えられる）を付与するため、分かり難い、欠番のバージョンがあるなど、問題がある。IEC データベースシステムの制約のため、他の IEC データベースと同等の識別方式を再利用したことが原因である。CR には別の識別子を付与できないか、再検討を行うことになった。共に審議文書であるため、JNC を通じてコメントを再度提出する。

3．IEC 辞書への新たな提案アイテム（環境プロパティ）の審議：
ドイツからの設置環境プロパティに対する審議を行った。その結果、いくつかの形式エラーが見つかり、提案者に再度、修正依頼を行うことになった。最初の Web データベース上での提案である点、システム、手順の問題から、まだ評価（Evaluation）の段階で、バリデーション（Validation）の段階に進むのにはもう少し時間がかかるものと考えられる。

4．データ交換形式の検討：
ISO/IEC 共通データモデルのデータ交換形式としては、ISO10303-21 が推奨されているが、辞書の作成を行うドメインエンジニアにとっては扱い難く、専用のツールが必要であるなどの問題があった。今回、日独から ISO へ提案を行ったデータ交換形式（ISO13584-35）の紹介を行った。ECALS 等日本工業会では、一覧性が良く簡単に使える Excel 等の表ツールを使って表形式で辞書の作成を行っているが、提案規格との相互変換も非常に簡単である。IEC データベースへの辞書入力テンプレートも同様の表形式を用意しており、規格としての表交換形式の必要性に関して理解を得た。

5．その他：
2007 年の日本での WG の開催を非公式に打診された。メリットが多いため、前向きに検討を行う。なお、次回は 2006 年 9 月、ベルリンで SC3D 会議、SC65B との合同会議と共に開催される予定である。　以上

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727
(TSC-06 様式　2006.3)

様式 4
様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：156-3／TC40-①　（事務局記入）
IEC活動推進委員会　御中
提出日：2006年 6月 8日

（報告者記載）整理番号：仮40-01J

IEC国際会議出席報告書

TC/SC/TA担当委員名：青木　仁　報告書作成者氏名：　青木　仁　（会社名）ＫＯＡ（株）

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC40 (半角)
TC40 C&Filter TC40 R&G	☒ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐WG ☐ＰＴ ☐その他		
TC40/WG36 TC40/WG39	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☒WG ☐ＰＴ ☐その他	名称 (日本語)	電子機器用コンデンサ及び抵抗器
TC40/MT60115 TC40/MT60384	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐WG ☐ＰＴ ☒その他		
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐WG ☐ＰＴ ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2006年 5月 31日 ～ 2006年 6月 2日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）済州島	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr.Saarinen / Mr.Friedrich	幹事国　オランダ	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 ドイツ，英国，米国，フィンランド，オランダ，スイス，韓国、参加人数（22）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○近藤隆則(村田製作所)，○大島 寛(ニチコン)，○栗林 孝志(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸｴﾚｸﾄﾛﾆｯｸﾃﾞﾊﾞｲｽ)，○尾村 博幸(日本ケミコン)，○中村 一重(ルビコン)，○上村 尚史(住友ｽﾘｰｴﾑ)，○楢岡浩喜(松下電器産業)，○青木 仁(KOA)，○池上 孝(太陽誘電)，○小杉 正則(ｱﾙﾌﾟｽ電気)，窪谷 耕造(JEITA)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 背景及び目的：TC40はコンデンサ及び抵抗器の製品規格や包装に関する標準化を行っており，各セッションで重複する会社が多いため，全体会議・WG・PT・MTを年一回の頻度で同時開催している。

2. 審議結果：

2.1 TC40 Capacitor&Filter：コンデンサ関係の標準化について審議した。　日本から提案したリード付きコンデンサの低ESL測定方法はNP投票に移り，加えてSMDコンデンサの低ESL測定方法に関する規格化提案を行い，NP提案することが了承された。　電磁障害防止用コンデンサに関してTC108とのジョイントプロジェクトを持って規格の整合化を検討したいとの提案があり承認された。

2.2 TC40 Resistor&General：抵抗器関係の標準化と全体に関わる全体会議。　各WG及び各MTの活動状況と審議結果が報告され，共通課題の審議を行った。　この中で，ドイツから電磁障害防止コンデンサ及びインダクタの空間距離の規格について760V～1000Vを追加する提案があり承認された。　また，役員人事と今後のプロジェクト及びメンテナンスサイクルが確認された。

2.3 TC40/WG36：部品包装（テーピング）に関わる標準化について審議した。　ECA-ACHよりベアダイ包装に関するEIA規格の審議状況が説明されTC47との連携が報告された。　IEC 60286-3表面実装部品のテーピング改正審議が行われ，FDISへ進む事が了承された。　新たに提案されたプレスキャリアや4mm幅1mmピッチエンボスは順次審議を進めるが，Type区分に関しては次回2007年の会議に持ち越しとなった。　前回了承されたPackingの表現への変更は問題があるとして，再度Packagingの表現に戻すことが了承された。

2.4 TC40/WG39：IEC品質認証手順の取り扱いに関して審議した。　日本より提出したIEC 608384-1(コンデンサGS)とIEC 60115-1(抵抗器GS)比較表をもとにEN規格とも調和する内容で，各製品規格共通に使用できる「品質認証手順」をAnnex Q案として完成させた。　新たに「技術認証TA」手順が追加された。　完成したテキストは再度WG39メンバーに回送され内容の確認を行う。

2.5 TC40/MT60115：抵抗器に関する規格の改正。　鉛フリーはんだの導入に伴うはんだ耐熱性及びはんだ濡れ性の試験条件，製品の保存条件，試験基板への0.8mm厚の追加とESD試験方法など部品共通の課題を全体会議に問題提起し，今後の検討課題とした。

2.6 TC40/MT60384：コンデンサに関する規格の改正。　IEC 60384-4/-18(アルミ電解コンデンサ)の改正CD文書に対する全ての日本コメントが受け入れられた。 IEC 60384-1(コンデンサGS)の審議を行いCDVへ進むことになった。また，TC40文書内での用語及び定義，文言の統一を全体会議に提案した。

3. 次回開催予定：2007年6月25日～28日　フィンランド　ヘルシンキ　（2008年度は、日本開催の予定）

(TSC-06様式 2006.3)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：156-3／TC47-①　（事務局記入）　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2006 年 6 月 5 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：田中　政樹　報告書作成者氏名：田中　政樹　（会社名）ルネサステクノロジ

会議名（半角）	区分	組織番（TC/SC/TA）	TC47WG2（半角）
TC47WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	半導体／環境試験方法
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006 年 5 月 18 日 ～ 2006 年 5 月 19 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	英国	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、日本、参加人数（6）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○ 田中　政樹（ルネサステクノロジ）　○若井　伸之（東芝）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

　半導体信頼性試験規格 IEC60749 シリーズの制定、改訂のための TC47WG2、表面実装技術／試験方法 TC91WG3 間でコンフリクトしている案件の調整のためのジョイント会議に出席。

TC47WG2 会議内容

１ IEC TC101(静電気委員会)との JWG 関係

・CDM 静電破壊試験：審議再開に際し、日本から JEITA の CDM 試験の改訂内容を反映した規格修正案を提出。

２　IEC 60749 の各個別試験方法審議

・はんだ耐熱性試験：Annex に載せる米国提案の防湿包装の取り扱い(Moisture Sensitive Level など)規格の審議再開が決定。JEITA／JEDEC のはんだ耐熱試験改訂が終わったこともあり、はんだ耐熱性試験本文と防湿包装取り扱いの Annex 文書案に米国が JEDEC 規格に合わせた文章修正を行い、その後、日本で JEITA 規格内容に合わせて修正するように宿題が出された。防湿包装の取り扱い規格は JEITA に無いが、JEITA 新試験内容を考慮して JEDEC 様式に合わせた内容に作成する必要が出てきた。

・ソフトエラー試験：ＣＤ段階で中性子線のマルチセルエラーに関するコメントなどが出されている。日本が対応文書を作成してＣＤＶ投票に臨む。

・ボードレベルの落下試験：以下の二つの試験方法を制定することになった。

　IEC60749-37-1 …　JEDEC の原案を内容とする落下試験方法

　IEC60749-37-2 …　日本が提案した落下試験方法（歪ゲージで基板に生じる衝撃を定量化する方法）

・ウィスカ試験方法：JEDEC の PAS／NP 投票は Approve されたとの報告があり、半導体独自のウィスカ試験方法の審議を進めることになった。まだ、投票結果が正式公表されていないため、次回から具体的審議が進む。

TC47WG2/TC91WG3　JWG 会議内容

ＴＣ４７、ＴＣ９１間でコンフリクトしていた案件は以下のように決定した。

・鉛フリーに関する包装ラベル表示：TC47、TC91 で共通の規格を作成

・錫メッキのウィスカ試験方法：TC47、TC91 で別々の試験規格を作成

・基板に実装したデバイスの落下試験：TC47、TC91 で共通の規格を作成　　以上

次回開催：2006 年 10 月、ロンドンにて、TC47 総会、TC47WG2、TC47WG2/TC91WG3 の JWG の同時開催

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：156-3／TC47-②　（事務局記入）　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2006 年 5 月 1 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：中村　篤　報告書作成者氏名：三谷 真一郎　（会社名）㈱日立製作所

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	SC47A/WG2 (半角)
SC47A/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	集積回路／ディジタルＩＣ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006 年 4 月 26 日 ～ 2006 年 4 月 27 日		
開催場所	（国名）ポーランド	（都市名）ワルシャワ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	三谷 真一郎	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、フランス、オランダ、アメリカ、ポーランド、チェコ 参加人数（17）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 三谷 真一郎（日立製作所）、齊藤 義行（松下電器産業）、○ 市川 浩司（デンソー）、中村 篤（ルネサステクノロジ）、増田 則夫（日本電気）、栗本 雅弘(沖電気)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. IMIC (IEC62404 Ed. 1)
日本の提案案件で、TS にするべく DTS ドラフトを回覧。DTS に対して 4/24 までに入手できたオーストリア、ドイツ、英国のコメントを審議した。（投票が 4/28 まで延長されたので、全てのコメントは審議できなかった。）
1) TR or withdraw の recommend については Not accepted でまとめた。
2) (5/1 時点の投票結果は 3 カ国の反対があるものの 12 票/15 票の賛成で approved。オランダのコメントが追加されており、メールベースで議論したい）

2. Low voltage family specification の改訂 (IEC60748-2-20 Ed. 2)
日本の提案案件であるが、PJ は未成立。成立させるべく 47A/745/Q を回覧。投票結果では反対はなく、6 月の SMB で PJ として承認される方向で進んでいる。
1) JEITA 低電圧 SC のプレゼン
提案の Scope とドラフトの内容について日本からプレゼンを実施。改訂に対する反対意見はなかったが、Schmitt の AC spec をどう取り扱うかが日本の宿題となった。
2) 6 月の SMB で承認を受けて CD を発行することの了解を得た。10 月のロンドン会議で CD への CC を審議する。

3. ICEM (IEC62433 Ed. 1)
3.1 Part 1 (General)
1) 前回のオースチン会議で Part 1 をオランダが担当する事とした。今回はオランダの委員が Part 1 の基本的な考え方と NP ドラフトの進捗状況の説明があった。
2) Part 2 以降は Part 1 がベースになるので、9 月までにオランダが NP 提案をするというタガをはめた。次回のロンドンでドラフトを議論できる見通しとなった。

3.2 Part 2 (Conducted emission)
1) フランスが 2CD 案の改訂版をその場で配布。内容的には 1CD と大きく変わっていない。
2) 大きな反対意見がなく 2CD を回覧することとなった。次回は 2CD に対する CC 文書を審議する予定。

3.3 Part 3 (Direct emission)
1)フランスから NP の提案意向があり、Lafon 氏が説明。モデルの考え方が不充分で、実態を表しきれないため、NP を出す前にドラフトを Revise し、10 月のロンドン会議で再度 NP の可否を議論することになった。
2) 技術的には実用レベルには遠く、次回までに国際 WG2 で合意可能なレベルの改訂版を準備できるか微妙。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　　運営委員会・資料番号：156-3／TC48-①（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中　　　　提出日：2006 年 6 月 7 日

（報告者記載）整理番号：H18SC48B①

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：SC48B　報告書作成者氏名：　前田　太門　（会社名）ヒロセ電機株式会社

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48B (半角)
SC48B/WG3	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
SC48B/WG5	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名称 (日本語)	コネクタ
SC48B/WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006 年 5 月 9 日 ～ 2006 年 5 月 11 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）スコッツデール	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	G. Weking/D. Jooren/U. Blosfeld	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、英国、フランス、イタリア、参加人数（20）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 前田太門(ヒロセ電機)、○ 小島槙雄(タイコエレクトロニクスアンプ)、○ 古澤禎俊(本多通信工業)、 西村武士(山一電機)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．WG３(Connector)

(1) 61076-3-112: IEEE1394a　4p　AV コネクタ
TC100 から依頼された日本提案　48B/1620/FDIS は、48B/1670/RVD で承認された。ＩＥＣ国際規格の発行待ち

(2)　61984 Ed 2.0: Connectors - Safety requirements and tests
IEC 61984 Ed.1 は、50Ｖ～1000Ｖ、125Ａ max のコネクタを規定するものであったが、改正原案 48B/1511/CD では，適用範囲を 0Ｖ～1000Ｖ、500Ａ max に拡大してしまった。前回会議の席上、日本から強く反対し討議の結果、議事録に技術的な変更はしないと記載された。それにもかかわらず 48B/1619/2CD でも技術的な変更が行われていたので今回会議の席上、日本から再度電流の適用範囲が 500Ａ max であることに強く反対し最終的に適用範囲を 125Ａ max とすることに成功した。

(3)　IEEE Power over Ethernet, Unmating under load
IEEE から活線挿抜試験法の標準化の依頼があった。　そのデーターの裏づけとなる活線挿抜試験の報告が 2 件あった。損傷はコンタクトの形状に非常に関係が深く、ワイピング範囲が小さいコンタクト形状においては損傷が大きくなるのではないかとの見解を得た。引き続き追加試験を行い、次回の会議で結果を報告することになった。

(4)　60050-581 (IEV 581) Terminology
IEV 581（TC48 の用語）が TC1 の文書 1/1982/CDV として各国へ回覧されている。この文書は、SC48B のメンバーの参加がないまま用語の削除、追加、修正などが行われているのでセクレタリーが SC48B のメンバーが懸念する点をまとめ TC1 へ手紙を出すことにした。

２．WG５(Test Method)

(1)　60512-15-X,60512-16-X（機械的試験）の規格 22 件は、仏語に翻訳中で、2006 年 6 月末までに CDV 文書として回覧することになった。

(2)　60512-26, Test 26 シリーズとして高周波特性 の試験方法が 4 件提案されている。　しかしこれらは、 将来の提案 (600 MHz など)に対応し易いよう 250 MHz の試験方法として一つにまとめることにした。

３．WG６(Connection Technology)

(1)　コンプレッションマウント接続（IEC 60352-X）
日本提案 (48B/1680/NP) のコンプレッションマウント接続について、プレゼンテーションを行い、支持された。
従来の無はんだ接続技術では 高速伝送，　基板の高密度実装が要求されるバックプレーンでは，限界が明らかになってきており新しい接続方式が必要となってきた。コンプレッションマウント接続は，この要求を満たす手段の一つとして開発された新しい接続技術である。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会　　　　　　運営委員会・資料番号：156-3／SC62A－①（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中　　　　　　　　　　　　　　　　　　　提出日：2006 年 6 月 6 日

（報告者記載）整理番号：H18SC62A⑦

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：萩原敏彦　（会社名）オリンパス(株)

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A　JWG1 (半角)
62A　JWG1	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称 (日本語)	医用電気機器の共通事項 リスクマネジメント
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2006 年 4 月 24 日 ～ 2006 年 4 月 27 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）パリ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alf Dolan	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	11 ヶ国、主な国名 アメリカ、カナダ、フランス、イギリス、ドイツ、日本　他、参加人数（25）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○萩原敏彦		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景・目的

医療機器のリスクマネジメント規格 ISO 14971 が 2000 年に発行された。内容の一部修正及び附属書にガイダンスを追加することを目的として改正作業が進んでいる。今回は、原案 62A/508/CDV に対する各国コメントを審議して FDIS 案を作成する。

2．成果

全コメントの審議と方向付けが終了した。8 月ごろには、FIDS となり、今年末には第 2 版として発行されることが確実となった。審議で方向付けられたいくつかの内容を紹介する。

1)　適用範囲から、新たに追加された“危険状態の特定”の文字が削除された。今回の改正の大きなポイントの一つである危険状態(ハザードから危害に至る中間過程)がリスク分析の一つの要素であるという理由で、適用範囲の文章から削除された。ハザードは抽象的で特定しにくいが、具体的な事象である危険状態は特定が容易なので効果的な文章であると受け止めていた。しかし、それが削除されても、新たに、“危険状態の特定”という項目もできたので、全体的には、バランスのとれた内容である。

2)　項目 7.の残留リスクの全体的評価において、残留リスクをどのレベルまでの附属文書で公表するか不明確な表現であった。これに対して日本コメント出したが、不明確さは改善されなかった。しかし、その内容は、製造業者決めると要求しているので、メーカ側がきちんとしたリスクマネジメントを行っていれば、問題にはならないと判断する。

3)　難解なハザードの例として表 E1 が混乱を招く内容なので、改善を要求した日本コメントが受け入れられて、理解異しやすい内容になった。

3．問題点

上記 2)で述べたようは不明確な点はいくつか残るが、全体的には第 2 版として発行してよいレベルになったといえる。FDIS が出たら JIS 原案作成に取り組んで、極力早く JIS の改正をする予定である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

（社）電子情報技術産業協会　　　運営委員会・資料番号：156-3／SC62A－②（事務局記入）　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2006 年 5 月 8 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：萩原敏彦　報告書作成者氏名：　中里俊章　（会社名）株式会社　東芝

会議名（半角）	区分	組織番(TC/SC/TA)	TC62 / SC62A (半角)
JWG1/JWG3	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	医用電気機器/共通事項
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2006 年 4 月 25 日 ～ 2006 年 4 月 27 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）パリ　(AFNOR)	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	JWG3：Sherman Eagles　（欠席）	幹事国 U.S.	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 米国、英国、独国、仏国、スウェーデン、中国、日本、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 三浦重孝(GE 横河ﾒディカルシステム)、○中里俊章(株式会社 東芝: 東芝ﾒディカルシステムズ株式会社)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景・目的]　会議に先立って、4 月 19 日 IEC 62304 FDIS が、投票の結果承認された（ISO:賛成 26、棄権 5、　IEC: 賛成 25、棄権 7）ことが公表された。これを受けて、JWG1/JWG3 合同で、JWG3 提案の“Guidance on the application of ISO 14971 to Medical Device Software”の策定に関する"NWIP(新ワークアイテム)"承認可否の審議と、JWG3 単独での前記 NWIP の具体化を審議する IEC TC62/SC62A / ISO TC210 合同国際会議となった。

[議事・結果]

1．ソフトウェアの比重増により複雑さを増す医療機器におけるリスクマネジメントについて、“ISO 14971 を software にどのように適用するか（IEC 62304, IEC 60601-1 等を関係文書とする）”に的を絞った“Guidance on the application of ISO 14971 to Medical Device Software”の策定を JWG3 の"NWIP"とすることを JWG1/JWG3 合同会議で提案し、承認された。

この会議直前、JWG3 議長 Sherman 氏が急病のため欠席であることが知らされ、以降、JWG3 は米代表 Patty Krantz 氏が議長代理で議事は進行した。

2．上記ガイダンスの提案文書を審議し、概要と内容目録(ISO 14971 の構成に準拠)案を決めた。各目録の担当者を決め 6 月末を目標にドラフト作成作業を進めることになった。日本は三浦氏が"Software implications of human factors considerations"を担当する。先回この NWIP 提案の関係文書とされていた AAMI TIR32 は、その趣旨が異なるとし、関係文書から除外された。

3．"IEC 62304 を実施するうえでのガイダンス策定”は、提案文書作成のためサブグループを結成し、10 月の TC62 会議に向け準備を始めることになった。リソース不足が指摘されたが、明快な結論は出ていない。

4．"ネットワークにより統合された医療機器・システムの安全性"に関する独国提案の規格化の件は今回は審議されず、別 WG で実行するという共通認識は合意はされたが、明確な計画は出せず。

[今後]

・"Guidance on the application of ISO 14971 to Medical Device Software”ドラフト審議のための事前会議が 8 月に FDA にて開催される予定

・2006/10/2-5　IEC TC62 会議(オランダ)で少なくとも上記２、３は審議される。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3SC62D-①（事務局記入）　様式 4

提出日：2006年 6月 2日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：市川義人　（会社名）オリンパス（株）

会議名（半角）	区分	組織番（TC/SC/TA）	SC62D/MT16（半角）
SC62D/MT16	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	医用電子機器 / 内視鏡機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006年 5月 16日 ～ 2006年 5月 19日		
開催場所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Zeller Hans-Werner （ドイツ）	幹事国　英国	
参加国及び参加人数	４ヶ国、主な国名 ドイツ、イギリス、米国、日本、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○市川義人(ｵﾘﾝﾊﾟｽ㈱)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは１行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

１．　背景と目的
IEC60601-1（医療電気機器安全規格）が近々第３版としてリリースされた。これに対応すべく IEC60601-2-18（内視鏡機器安全規格）第３版原案作成および今後の活動を打ち合わせる。

２．　成果及び課題：(原案作成のための作業文書の審議)

・内視鏡に対する耐電圧試験（IEC 60601-1 第３版ではワーキングボルテージを参照電圧として耐電圧試験を換算）は、高周波適用内視鏡例えばAPC4000Vを適用とした場合１万Ｖ以上をかけることになる。これは無謀であるため、内視鏡の場合は商用電源のみ適用するという除外例を盛り込んだ（最大の成果）
・IEC　60601-2-2　電気メス第４版では高周波漏れ電流、高周波耐電圧、低周波耐電圧試験があるが、高周波漏れ電流はアクティブコードに対するものであるので処置具には適用外とした。しかし他の試験は電気メスで既に制定されているため否定する事が難しいため、現状対応する方向で進めているが、緩和措置を検討する方向を残した。
・ラパコレ等で内視鏡外のトラカールから電気メス処置をした場合に処置具の耐電圧はIEC　60601-2-2が適用になるか、2-18が適用になるのかはっきりしていないため、日本意見として強く指摘し、用語の定義適用範囲等の見直しを行った。現状まだ結論にいたっていない。
・英国メンバーが原案の細部の表現の見直しを行い次回最終確認を行う事になった。
・IEC　60601-1-8 アラームシステムへの対応方法は、日本メンバーが読み込み次回提案する。
・耐電圧試験に関して 60601-2-2 の方法が本当に問題ないか、市場状況もあわせて次回までに独、日本が確認し提案する。
・IEC　60601-1-6 ユーザビリティー、IEC　60601-1-9 環境保護に関しての対応方法は全員が検討し次回打ち合わせを行う。
・MT-17、MT-16 双方からのリエゾンを送り込んでいた（過去）が、ここ数年参加が無く規格の整合が取れていない。その結果細部で問題が発生しているため、再度リエゾンを交換する事となり、日本メンバーがリエゾンとなる事が決定された。翌週のMT１７会議で情報出しを行った。

３．今後の日程
CD　2006年10月発行
CDV　2007年２月発行
FDIS　2007年10月発行
IS　2008年４月
次回打ち合わせはロンドン（予備日）及びオランダでの TC６２（9月末から 10月初め）に実施し、SC６２D会議に結果を報告する。（リエゾン及び CD の発行及び日程）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727
(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：156-3/SC62D-②（事務局記入）　　様式 4
IEC活動推進委員会　御中　　　　　　　　　　　　　　提出日：2006年 6月 6日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 内藤正章　　報告書作成者氏名： 三堀貴司　（会社名）オリンパス（株）

会議名（半角）	区分	組織番（TC/SC/TA）	SC62D/MT17（半角）
SC62D/MT17	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	医用電子機器 / 高周波手術器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006年 5月 22日 ～ 2006年 5月 24日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ボルダー	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jeff Eggleston　（米国）	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、カナダ、UK（ウェールズ）、オーストリア、スウェーデン、日本、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○三堀貴司(オリンパス㈱)　市川義人(オリンパス㈱)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.背景と目的

以下の審議事項に関する審議、検討の為、主題会議に出席した。

・IEC61289-1（高周波手術器のオペレーション）、IEC61289-2（同メンテナンス）規格の方向付けの整合（本規格は、この度MT-17担当となった案件）。

・IEC60601-2-2 （高周波手術器安全規格）第4版FDISの最終整合。

・IEC60601-2-2 （高周波手術器安全規格）第5版（医用電気機器安全通則第3版とのハーモナイゼーション化）原案作成に向けた方向付けに関する審議、整合。

2.成果及び課題

①IEC61289-1/IEC61289-2の方向付け

・両規格共にユーザーにとって有用である事から、ガイダンス、若しくはテクニカルレポートとして残す事となった。事前の国内委員会に於いて、本規格が実質的に運用されていない事も考慮して廃止としても可と考えていたが、廃止を訴える事で高周波手術器安全規格（IEC60601-2-2）に盛り込まれる事を嫌い、最終的には残す（一部条件付。後述②記載の対極板の貼り付き位置に関する要求事項）事も視野に入れて対応する事としていた。今回の整合事項は日本側の目論見と一致した結果となった。

②IEC60601-2-2 第4版 FDIS最終整合

・参加委員全員一致にて、賛成が確認された。但し、日本側から対極板を貼り付ける位置に関する取扱説明書への記載要求事項に対してそのリスクを指摘（実際に対極板を術野直近に貼り付けた事で穿孔した事例がある事を説明）。この日本側指摘は、委員会にて了承、受け入れられた。但し、第4版ISには間に合わない為、第5版で盛り込む事で合意した。尚、第5版原案に盛り込む文案は日本が作成する事で了承された。

③IEC60601-2-2 第5版原案作成に向けた審議、検討

・医用電気安全通則 第3版とのハーモナイゼーション化に向けて課題となっている項目（前回国際会議にて抽出された事項）について審議をし、第5版規格原案作成に向けた方向付けが整合された。

・第4版の主な改正ポイントとして、アクセサリー類の絶縁要求事項が挙げられる。本件は、MT-16（内視鏡規格）でも審議されているが、現行の規格を見てもダブルスタンダードとなっている。この様な状況を回避すべく、MT-16 メンバーからリエゾンを置くべきとの提案がなされ、MT-17 委員会でも了承された（但し、IEC本部から正式アナウンスを要求。MT-16コンビーナー、セクレタリーからIEC本部経由でアナウンスを依頼)。

3．今後の日程

次回会議はドイツにて5/21-23に開催予定。第5版原案作成、及び討議を目的に開催される。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3/TC80-①（事務局記入）　様式 4

提出日：2006 年 5 月 16 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

会議名（半角）	区分	組織番(TC/SC/TA)	TC80 (半角)
TC80/ WG7	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	電子海図表示装置(ECS)
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006 年 5 月 10 日 ～ 2006 年 5 月 13 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ニューポートビーチ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Bob Feather/Joe Ryan	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、米国、ロシア、フランス、スウェーデン、ドイツ、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○田北　順二（日本無線）、○矢内　崇雅（沖電気工業）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景

非 SOLAS 船用の電子海図装置(ECS)に関する規格 IEC 62376 作成委員会である。

2．目的

2006 年 1 月中旬に開催された WG7、WG13 及び WG1 の 3WG の合同会議にて、航法情報表示に関する原則条件及び IEC 規格への記載内容の精緻化が完了したことを受けて、当初目的である 2006 年中旬での CDV 回章に向けた最終的な IEC62376Ed.1 の CDV 案を作成する。

3．成果

3．1　2006 年 3 月の WG13 で開発している IEC62288Ed.1 航法関連情報表示のドラフト内容が固まったことを受けて、本 IEC62376Ed,1 小型船舶向け電子海図装置で使用するシンボル等の表示は上記規格を引用することで内容の精緻化を図った。

3．2　本電子海図装置は漁船、プレジャーボート等全ての小型船舶を対象としていることから、ユーザ要求が多岐に亘るため、その目的に合わせた機能・性能要件毎にクラス A、クラス B 及びクラス C とし、前 2 者は安全航行（Safety Navigation）を主要な目的とするものであり、後者は航行支援(Navigation Monitering)の目的であり、船舶位置のプロットと監視を意図した装置である。特に、クラス A は SOLAS 対象船舶用の ECDIS 装置のバックアップ用装置としても使用できるとした。（バックアップ装置として認めるか否かは、各国主管庁の判断による。）

3．3　各クラスで使用する表示器の最低要件としてのサイズ、クラス A：250mm x 250mm,クラス B：166mm x 160mm、クラス C：101mm x 101mm とその分解能は、クラス A：1280 x 1024、クラス B：800 x 600、クラス C：640 x 480 とした。

3．4　本装置は関連する IEC 規格として IEC60945（一般要件）、IEC62288（航法情報表示）、IEC61162（デジタルインタフェース）との整合性が必要であることから各クラス毎の必要性の有無についての規準化を図った。

4．次回会議予定

本 IEC62376Ed.1　ECS（小型船舶向け電子海図装置）の IEC 規格の開発は、当初の NP に記載されているスケジュールを 1 ヵ年以上も遅れているが、今回会議にてほぼ内容的には纏まったため 2006 年 6 月に CD を関係委員に回章をし、そのコメントから CD の精緻化を図り、2006 年 8 月に CDV の回章を図るとしたスケジュールを計画した。

従って、次回会議は、2007 年 2 月頃　CDV　Resolution 会議の開催とした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3/TC80-②（事務局記入）　様式 4

提出日：2006 年 4 月 30 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：TC80　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

会議名（半角）	区分	
TC80/WG8A	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	組織番（TC/SC/TA）: TC80（半角）
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）: AIS（船舶自動識別装置）
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催
開催期日	2006 年 4 月 10 日 ～ 2006 年 4 月 13 日	
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ハンブルグ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Stewart	幹事国 UK
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、、ドイツ、UK、オーストリア、参加人数（7）	
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○古山賢二（日本無線）、○矢内 崇雅（沖電気工業）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

.1　背景

2001 年 12 月に IS 化された IEC61993-2Ed.1 クラス AAIS の IEC 規格のメンテナンス（改定）への期限が 2006 年 12 月で切れるので、これまでの運用状況、稼動状況からクラス A　AIS に関する機能・性能要件への向上・変更要求が多く寄せられたことから、IEC61993-2Ed.2 の開発を行うことが TC80 総会にて承認された。

2.　目的

IEC61993-2 のメンテナンスが必要との先の TC80 総会の結論を受けて 2006 年 1 月の第 1 回サラソタ会議にて検討された変更項目の精緻化と Ed.2 ドキュメントの作成を行う事及び TC80　Secretary が WG8A との意思疎通を図らずに 80/435/MCR として回章した IEC61993-2Ed.2 に対する WG8A としての Objection を推進する。

3.　成果・問題点

３．１　”80/435/MCR 回章後 2 ヶ月以内に Objection があれば、その手続きを取る必要がある ”とされているため、WG8A として第 1 回会議にて設定をした開発スケジュールの考えを通すために WG8A として Objection を IEC 事務局に提言するための手続き方法とその内容の整合を図り、関係各国への進言と協力の依頼を行った。本提言内容の基本文書構成は日本からの提言を基にして作成され、各国はそれを基に Objection を作成した。Objection の提出国は日本、UK、米国、ノールウェー、スウェーデン、ドイツ、オーストリアとロシアが確認された。

３．２　本クラス A　AIS の機能・性能要件は ITU-R　M.1371 にて規定されており、IEC61993-2 クラス A　AIS はその ITU-R ドキュメントをベースに作成しているため、現在 ITU-R は M.1371-3 への改定作業を 2006 年６月にはドラフトを完成させることとしているからこの日程との整合性を図る必要があるため、CDV 回章：2006 年 7 月、FDIS：2006 年 12 月、IS：2007 年 4 月として WG8A の日程を策定した。

３．３　IEC61993-2Ed.1 で規定されていた、①VHF 周波数の 12.5kHz 帯域での運用、②DSC ポーリング機能の削除､③ロングレンジ機能の削除及び非 SOLAS 船舶対応として開発したメッセージ 23 と 24 の適用を検討した。

３．４　前回の第 1 回 Sarasota 会議にて提案された改訂項目への精緻化と IEC61993-2Ed.2 ドラフトへの盛り込みを目的とした作業を行い、ドラフトを作成した。但し、無線関係については別ドキュメントにて内容の検討・精緻化を行い、次回までに PL にて IEC61993-2Ed.2 ドラフトへの盛り込みを行うことになった。

4.　今後の会合予定

ITU-R　M.1371-3 のドラフト案の策定が 2006 年 6 月の IALA　TWG　スウェーデン Norkopping 会議にて完了することから、第 3 回会議は下記のとおりとなった。
2006 年 6 月 26 日～6 月 30 日　　ドイツ　ハンブルグＢＳＨ

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3/TC80-③（事務局記入）　様式 4

提出日：2006 年 5 月 16 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	TC80（半角）
TC80/WG14	□TC　□SC　□TA　☒WG　□PT　□その他		
	□TC　□SC　□TA　□WG　□PT　□その他	名称（日本語）	基地局／航法支援
	□TC　□SC　□TA　□WG　□PT　□その他		
	□TC　□SC　□TA　□WG　□PT　□その他	☒単独開催　□同時開催	
開催期日	2006 年 4 月 24 日 ～ 2006 年 4 月 28 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）コブレンツ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Stewart	幹事国 UK	
参加国及び参加人数	10ヶ国、主な国名 日本、UK、米国、ロシア、ドイツ、スウェーデン、カナダ、オーストリア、オランダ、IALA、参加人数（18）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古山　賢二（日本無線）、○矢内　崇雅（沖電気工業）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1　背景
　AIS の基本的な要件は船舶―船舶、船舶―陸上局間でデータ通信が出来ることと規定されており、SOLAS 対象船舶に搭載される AIS 装置は既に IEC 規格として制定された。一方 AIS としての分類に陸上局及び航路標識用装置があり、IEC 規格を作成することで AIS システムとしての整合の取れた運用が望めることになる。

2.　目的
　第 10 回東京会議にて検討された機能・性能要件、テスト要件、外部インタフェース要件のバージョンアップを図るとともに、東京会議にて特に検討が不十分であった無線関連の検討を行い、それらを盛込んだドラフトを作成し、第 13 回会議での CDV 化が図れる内容にまでドラフトのレベルに仕上げる。

3.　成果・問題点

３．１　IEC62320-2 ドキュメントの構成である、①機能・性能要件、②テスト要件、③無線関連要件とそのテスト要件、④データインタフェース要件の検討が出来る委員の参加があり、全ての項目に関しての議論・検討がされた。

３．２　これまで議論されてきた 3 タイプの AtoN（航路標識）AIS の機能・性能要件に関して更なる検討の結果、Default タイプでの要件を簡素化し、それらのタイプ毎に変更できる機能要件を、ユーザ要求を考慮してメーカ設定とすることで規格としての応用性を確保した。

３．３　技術的要件のうち、CSTDMA の送信電力については 3 タイプの Default で 12.5W にしたことで無線系の性能要件への規定作りに今後注目をされるが、メッセージタイプによる到達距離の違いによる運用への課題は解決された。一般環境条件に関しては、本 AtoN　AIS の参照ドキュメントである IALA AtoN AIS A126 では IEC 規格以外の規格を引用していたが、装置の運用に当たって各国のユーザによる要求が強いことからメーカによる規定の方向とした。又、位置情報が大切な装置であることから DGNSS 機能を標準装備とする考えが強く出されたが、ガリレオ等の今後の測位システムの性能向上が期待できるためオプション扱いとした。

３．４　2005 年 10 月の IEC 総会での合意を受けて、NP にて記述された開発スケジュールの厳守を IEC 事務局が求めていることから、6 月 11 日までに委員からのコメントを添付した修正ドラフトを回覧し、それへのコメントと未結論の課題へのコメントと共に 2006 年 8 月 7 日迄に WG14　Secretary に提案することの合意にて、第 13 回 WG14 会議での効率的な CDV 案の検討の道筋を明確にした。

4.　今後の会合予定
・第 12 回：　2006 年 6 月 9 日～6 月 13 日　フランス　パリ　St'Germain　・・IEC62320-1 基地局 AIS の Resolution 会議（場合によっては IEC62320-2 AtoN AIS の検討も行う）
・第 13 回：　2006 年 8 月 21 日～25 日　ロシア　セントピータスバーグ・・ＣＤＶ案の作成

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

（社）電子情報技術産業協会　　　　　運営委員会・資料番号：156-3/TC87-①（事務局記入）　　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中　　　　　　　　　　　　　　　　　　提出日：2006 年 6 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H18TC87①

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：木下　博之　報告書作成者氏名：上羽　貞行　（会社名）東京工業大学

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/Plenary	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	超音波
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☐同時開催	
開　催　期　日	2006 年 5 月 19 日 ～ 2006 年 5 月 19 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）ニューオリンズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	John Abbott	幹事国　英国	
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 米国,スペイン,オランダ,中国,ドイツ,英国,イタリア,日本、参加人数（30）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○森 榮司(東工大)、○上羽貞行(東工大)、梅村晋一郎(京大)、近藤敏郎(徳島文理大)、工藤信樹(北大)、菊池恒男(産総研)、内藤みわ(アロカ)、内山進(東芝)、岸本眞治(日立メディコ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景／目的：前回 2004 年 9 月中国杭州会議に続くチェアマン J Abbott 氏の体制による２回目の全体会議。5/15-5/18 に各 WG の会議を行い、５/19 本 Plenary にて報告、方針決定を行った。

成果(結果)：

1. IEC 中央事務局からの連絡。IEC 100 周年関連事業、CENELEC パラレル投票、CDV/FDIS/規格発行に関する規程、その他が紹介された。
2. 各 WG のエキスパートの人数について。「各国からのエキスパートの登録人数無制限化」の審議と投票。賛成 6(US、ES、NL、CZ、JP、IT)、反対 2(UK、DE)で可決。この決定に問題がないか SMB に確認する。
3. 各 WG の結果報告と方針決定。（各 WG の活動は Abbott 議長のもとに規格作成が順調に行われている。）
   - WG3(強力超音波振動子)：IEC 61885 の CDV（3 ヶ月以内）発行。
   - WG6(超音波集束形トランスデューサ)：HIFU(強力集束超音波) の技術報告書作成のためエキスパートの募集。
   - WG7(超音波手術器)：IEC 61205(歯科用歯石除去装置)、61846(衝撃波結石破砕装置)、61847(超音波手術システム)の規格改訂開始が決定した。
   - WG8(超音波音場測定)：IEC 62127-1,-2,-3(40MHz 以下のハイドロフォン:計測、校正、特性) CDV 2006/7 発行。IEC 61161(超音波パワー計測) 2006/9 FDIS 発行。IEC 62359(超音波診断装置の出力指標)の MCR 発行決定。
   - WG9(パルスエコー診断装置)：IEC 60854(パルス方式超音波診断装置の性能)の MCR を 2008 年とする。
   - WG10(血流測定/表示機器)：IEC 61206、61266、61685、61895 の MCR の発行とエキスパートの募集。
   - WG12(超音波照射パラメータ)：WG12 の Scope を「医用超音波分野の安全に関わる文書の提供」とすることが決定。
   - WG14(超音波照射パラメータの決定)：IEC 61216(超音波診断装置の超音波照射による生体の温度上昇計算方法)の改訂計画を CD 2006/12, CDV 2008/3, FDIS 2009/3 とすることが決定した。
   - WG15(水中超音波)：IEC 60565 Ed.2 の FDIS 発行決定。コンベナは、Robinson 氏(英国)に決定。
4. 次回 TC87 全体会議　2007 秋、日本開催が承認された。

問題点：超音波の安全性に関する関心が高まり、より正確な音場の測定、超音波照射のより正確な指標表示、生体温度上昇の計算方法などの規格作成が加速している。これらの動きに対し、国際会議にて今まで以上に技術的問題点の指摘をできる体制にしていく必要がでてきており、日本の国内委員会に十分なリソースが必要である。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後 6週間以内 に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3／TC87-②（事務局記入）

提出日：2006 年 6 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H18TC87③

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：木下　博之　報告書作成者氏名：　工藤　信樹　（会社名）北海道大学

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	超音波／集束形トランスデューサ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	

開　催　期　日	2006 年 5 月 17 日 ～ 2006 年 5 月 18 日	
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）ニューオリンズ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Tom Szabo（米国）	幹事国　英国
参加国及び参加人数	11ヶ国、主な国名 米国，日本，イギリス，韓国，ドイツ、参加人数（30）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○工藤信樹（北大）、○梅村晋一郎（京大）、菊池恒男（産総研）、岸本眞治（日立ﾒﾃﾞｨｺ）、上羽貞行（東工大）、斉藤興治（鈴鹿医療科学大）、内藤みわ（ｱﾛｶ）、森榮司（東工大）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景：HIFU（High-intensity focused ultrasound：強力集束超音波）を用いた治療装置が中国、イギリスを中心に臨床に供されつつあり、米国ＦＤＡの承認やＣＥマークの取得が進められている。しかし、強力超音波治療装置の音場評価のための国際規格はいまだ整備されていないことから、強力超音波治療装置の音場評価法に関する議論が WG6 で開始された。これまで、2004 秋（TC87 会議，杭州)、2005 秋（ISTU，ボストン）の２回に渡り検討を行ってきた。

2．目的：本ＷＧの最終目的は、HIFU 音源の特性を明確にするために計測すべきパラメータの決定と、その計測に最適な計測法について検討し、これを規格化することにある。そのための第１ステップとして、（1）HIFU 音場計測に関するこれまでの研究に関するサーベイを行ない、Technical Report を作成する。（2）従来規格との整合性の高い規格を作成するために、医用超音波に関する既存の IEC 規格と HIFU 規格との関連性を明確にすることを目的として作業を開始した。

3．成果：（1）HIFU 音場計測に関するサーベイとして、３つの文書（ 1.HIFU 音場の計測に関する要求事項(A. Shaw, UK)、2.HIFU 技術と計測規格の現状(S. Howard, USA)、3. HIFU 出力の推定(R. Muratore, USA)）に関する検討と、４件の HIFU 音場計測法に関するプレゼンテーション（1. A. Shaw (メンブレンハイドロホン法)、 2. Y. Fangwei（反射法)、 3. M. Schafer（反射法)、4.工藤（シュリーレン法)）が行われた。上記 A. Shaw の文書に、今後のさらなる測定法調査結果を加え、IEC の Technical report のフォーマットにあわせた書き換え作業を行う。（2）従来規格との整合性確保を目的として、医用超音波計測に関する２６の規格に関し、HIFU 音場計測との関連の程度を検討した。

4．問題点：規格化までのロードマップが十分議論されておらず、作成すべき文書の全体像や完成時期が明確になっていない。対象が治療器であり SC62D との関連も明確にする必要がある。HIFU 装置のメーカからの参加者が１名に限られていることも将来的に問題となるかもしれない。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会 御中

運営委員会・資料番号：156-3／TC87-③（事務局記入）

提出日：2006 年 6 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H18TC87④

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名： 木下 博之 報告書作成者氏名： 斉藤 興治 （会社名）鈴鹿医療科学大学

出席会議名(半角)	区 分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/WG7	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名 称 (日本語)	超音波／超音波手術器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開 催 期 日	2006 年 5 月 15 日 ～ 2006 年 5 月 16 日		
開 催 場 所	（国名）米国	（都市名）ニューオリンズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr.Mike Halliwell	幹事国 英国	
参 加 国及び 参 加 人 数	3 ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、日本、参加人数（7）		
日 本 人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○斉藤興冶（鈴鹿医療科学大学）、○菊池恒男(産総研)、森榮司（東工大）、上羽貞行（東工大）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．当 WG の役割

本 WG の主たる目的は超音波を用いた治療、手術装置全般の規格化である。この範囲は、超音波振動を直接生体患部に作用させる装置（例えば歯石除去装置や超音波メス）を対象とする一方、生体中の深部に強力な超音波音場を形成しそこに発生する音圧や熱作用によって患部に作用させる装置（例えば結石破砕装置）も対象とする。これら二つの手法は超音波技術、装置構成、評価その他の面から見て非常に大きく異なっており、これらを纏めて超音波手術器として同一 WG で規格化を図ることは必ずしも得策ではない

2．当 WG の現況

上記を踏まえて当 WG の現状の問題点を見てみると一口に言って活発な活動が行われているとは言いがたい。

1）直接伝導形のものは、その対象や装置形式も新規なものは現われず、規格的に新規の要素が少ない。

2）強力音場形のものは結石破砕装置以降新しい対象や製品が出ず、新規規格作成の外的要求は、現状少ない。

3）近年にわかに注目の HIFU 装置（強力集束超音波装置）は新しいカテゴリーであるが、この規格化に関しては TC６２との仕事範囲の振り分けによって、WG７として積極的な取り組みに逡巡するところが見える。

3．今回の WG 作業の報告

上記を踏まえての今回の WG 会議は既成規格のメンテナンス作業のみが対象となった。またコンベナーの Dr.Halliwell が病気で会議欠席ということも有り、前回からの宿題事項のメンテナンス規格の取り扱いのみに話題がしぼられた。Dr.Schafer（USA）が臨時に会議をとりしきった。

1）IEC 61205 歯科用歯石除去装置ー測定および出力の特性：この規格は発行から年数を経ているため見直しが必要となってきている為、WG として取り組むこととし、米国の委員が次回までに改変案を作成することとした。

2）IEC 61846 衝撃波結石破砕装置ー音場特性：この規格は大略まだ改変の必要は認めないものの、近年の新しい音響測定法等を取り入れた部分的改変が提案された。Ueberie（独）から新しい測定法が紹介され、それらを含めて衝撃波を利用した治療装置全般にかかわる付属書の作成が提案された。

3）IEC 61847 超音波手術システムー測定および基本的出力：この規格は現状技術に適合していない。見直すべきだとの提案があった。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル） Tel：03-3518-6435 Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3／TC87-④（事務局記入）

提出日：2006 年 6 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H18TC87⑤

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：木下　博之　報告書作成者氏名：　内藤　みわ　（会社名）アロカ株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC87（半角）
TC87/WG8	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	超音波／超音波音場測定
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2006 年 5 月 15 日 ～ 2006 年 5 月 18 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）ニューオリンズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Rob Hekkenberg（オランダ）	幹事国　英国	
参　加　国及び 参　加　人　数	10ヶ国、主な国名 米国・英国・ドイツ・韓国・日本・オランダ・イタリア、参加人数（33）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○内藤みわ（アロカ）、○内山進(東芝)、菊池恒男（産総研）、山崎聡（東芝）、梅村晋一郎（京大）、工藤信樹（北大）、岸本眞治（日立）、上羽貞行（東工大）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 背景及び目的

当 WG は超音波音場測定の規格作成を行っている。超音波音場測定は、医用超音波診断装置の音響的安全性を確保するために必須である。これを実施するための各種音響出力の測定方法に関する規格案の審議が今回の主目的である。

2. 成果

今回の審議は、放射力による超音波出力測定方法規格、ハイドロホンに関する使用方法・校正方法・仕様の３規格、超音波診断装置の画面に表示する指標 TI/MI の決定方法規格の見直し、超音波理学療法装置の性能測定方法規格、超音波理学療法装置のメンテナンスガイドの７規格であった。

ハイドロホンの使用方法では、ハイドロホンが規定の帯域条件に合致しない場合は複素校正データを用いたデコンボリューション法を実施するという案になっていた。複素校正データはまだ一般的ではなく、一方でハイドロホンの帯域条件も厳しい特性が要求されているので見直しをするよう日本から意見を出していた。起案者側は、デコンボリューション法はオプションであるという見解だったが、ハイドロホンの帯域条件については緩和をすることで決着した。WG8 のエキスパートは各国の最高水準の試験所から来ていたりするので、測定精度の観点のみから規格を決める傾向にあるが、一般のメーカーレベルでは実現が困難な場合も多い。今回、メーカーの立場ではハイドロホンの帯域条件が厳しいことをわかってもらい、妥当な要求事項に落ち着いたことの意義は大きい。

TI/MI 決定方法規格については、米国がメンテナンス完了期日の前倒し提案を出していたが、期日前倒しは否決された。また TI のモデルを根本から見直す提案も会議直前に出されたが、TI のモデルに関しては WG14 で検討し、考え方がある程度かたまってから WG8 の TI/MI 決定法で考慮することになった。当面は現状の不備を補う Amendment を 2008 年目標に着手することになった。

今後も妥当な規格になるよう継続的に日本意見を反映させるようにしていく必要がある。

3. 問題点

WG8 の測定方法規格は重要であるが案件の数が多く、全体を見るのが困難になっている。重要な部分の見落としが無いように、ある程度分担する必要がある。

4. 今後の予定　2007 年の２月か３月に WG9/12/14 とリンクしてヨーロッパで予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3／TC87-⑤（事務局記入）

提出日：2006 年 6 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H18TC87⑥

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：木下　博之　報告書作成者氏名：岸本　眞治　（会社名）日立メディコ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/WG9	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名　称 (日本語)	超音波/パルスエコー診断装置
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2006 年 5 月 17 日 ～ 2006 年 5 月 17 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）ニューオリンズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Peter Edmonds(米)	幹事国　英国	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 米、英、独、伊、チェコ、日、参加人数（17）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○岸本眞治[日立ﾒﾃﾞｨｺ]、○近藤敏郎[徳島文理大]、梅村晋一郎[京大]、内山進[東芝]		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１. 背景：超音波診断装置の性能評価手法を規格化する要求が高まっている。TC87 は、科学的根拠に基づいた適正なる評価手法を提案、審議する責務を帯びており、WG9 が担当部門である。

２. 目的：今回の WG9 会議は、断層像用ファントムを用いて空間および濃度分解能を測定する手法の規格案と、生体内部で発生する音響ノイズを模擬するファントムによる画質判定手法規格案の審議が主なテーマである。日本は、評価手法の明確化、測定の再現性と技術的矛盾の払拭を目的に意見陳述し、我が国に不利な状況を是正する事を目論む。

３. 成果：

3.1　IEC61391-1 [ポイントスプレッド関数による高輝度部の分解能評価手法]
FDIS 投票結果と、各国コメントの審議。日本コメントが採用され、技術的な矛盾が解決した事が確認できた。

3.2　IEC61391-2 [ポイントスプレッド関数による低輝度部の分解能評価手法]
本件は審議が停滞しゼロステージに戻ってしまった物を、いかにして再提案するかを討議した。新たに CD の素案を持ち寄り整理統合をはかった。さらに、新規成立の IEC 規格との整合を検討した。なお、別途 WG9 を開催し、早期に CD 完成を目指す事とした。

3.3　IEC61391-3 [生体音響ノイズ模擬ファントムによる画質判定手法規格案]
本規格案は、ポリウレタンを主剤として、これに微小な泡や減衰材の粒子などを練りこんだ生体音響ノイズ模擬ファントムを規定し、これを用いて撮像したデータを画像処理し、超音波診断装置の画質の優劣を判定する方法に関するものである。これに対し日本は、ファントムでの生体音響ノイズ発生のメカニズムが明らかでない旨を指摘し、この方式の正当性を保証する参照文献の記載を求めた。さらに、誰でも再現可能である様に、ファントムの成分や製造法を詳しく説明するレシピの追加を求めた。いずれも CD 記載するとの約束を得た。

４. 問題事項等：上記 IEC61391-3 は、ファントムと評価システム供給企業のニュービジネス向け規格とならぬ様に修正する必要がある。

５. 今後の予定：次回 WG9 は、2007 年の初旬に欧州にて開催する。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：　156-3／TC100-①

様式 4

提出日：2006 年 5 月 16 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：杉浦 博明　報告書作成者氏名：杉浦 博明　（会社名）三菱電機(株)

<table>
<tr><td>会 議 名（半角）</td><td>区　分</td><td rowspan="2">組織番
(TC/SC/TA)</td><td rowspan="2">TC100/TA2 (半角)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">TA2 Ad Hoc
Goup neeting</td><td>□TC　□SC　□TA　□WG　□PT　☒その他</td></tr>
<tr><td>□TC　□SC　□TA　□WG　□PT　□その他</td><td rowspan="2">名 称
(日本語)</td><td rowspan="2">カラーマネージメント</td></tr>
<tr><td>□TC　□SC　□TA　□WG　□PT　□その他</td></tr>
<tr><td>□TC　□SC　□TA　□WG　□PT　□その他</td><td colspan="2">□単独開催　□同時開催</td></tr>
<tr><td>開 催 期 日</td><td colspan="3">2006 年 5 月 8 日 ～ 2006 年 5 月 8 日</td></tr>
<tr><td>開 催 場 所</td><td>（国名）フィンランド</td><td colspan="2">（都市名）ヘルシンキ</td></tr>
<tr><td>ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ</td><td>池田 宏明</td><td colspan="2">幹事国　米国</td></tr>
<tr><td>参 加 国及び
参 加 人 数</td><td colspan="3">2 ヶ国、主な国名 日本、米国、参加人数（9）</td></tr>
<tr><td>日 本 人
出席者名（会社名）</td><td colspan="3">[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)]
池田 宏明(千葉大学)、○加藤 直哉(ソニー)、仲谷 文雄(富士ゼロックス)、○杉浦 博明(三菱電機)</td></tr>
</table>

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．背景・目的
IEC61966-2-1 sRGB 改定に関する Ad Hoc グループの会議が、5 月 8 日にヘルシンキにて急遽開催されることになった。sRGB は、ディスプレイ、プリンタ、カメラなどの製品に関連する国際標準で、既に広く普及しているものであるが、改定は必要ないという日本の産業界の立場に反して、米国から早期に改定案の作成に着手するべきとの提案が、昨年 9 月にあった。TC100/TA2 サンノゼ会議において、sRGB の広い普及状況を鑑み、先ず、改定に着手するべきか否かを十分審議するべきとの結論になったことを受けて、今回、TC100/AGS・AGM 会議が開催されるヘルシンキにて会議が併催されることになった。上記製品の主たる生産国である日本の立場を主張するために出席した。

２．成果
「sRGB の改定は必要なし。」との日本の主張に対して、一部の米国エキスパートも賛同し、Ad Hoc グループの合意事項として、sRGB を改定しないとの結論になった。New maintenance result date は、9 月のベルリン会議にて決定される予定。なお、結論が出たため、この Ad Hoc グループは、解散となった。

３．問題点
特に無し。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：　156-3／TC100-②　　（事務局記入）　様式 4

IEC活動推進委員会　御中

提出日：2006年 6月 9日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：古川雅通　（会社名）（株）ケンウッド

会議名（半角）	区分	組織番（TC/SC/TA）	TC100/PT61606-3（半角）
PT61606-3	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	デジタルオーディ測定方法
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		プロフェショナル用途
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2006年 5月 21日 ～ 2006年 5月 21日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）パリ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Masamichi Furukawa	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 イギリス、日本、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] 倉片健二（産総研） 由雄淳一（パイオニア） ○ 古川雅通（ケンウッド）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

「デジタルオーディオ測定方法ープロフェショナル用途」の規格化プロジェクトの第四回会議報告

概要

PT61606-3のＣＤが昨年１２月９日配布され、今年の３月１０日にコメントがクローズされた。

コメントは１カ国からエディトリアル的な簡単なものであった。

今回のパリにおけるプロジェクト会議ではこのコメントへの対応とＣＤＶの作成が主目的であった。

ＮＣからのコメントは簡単なものであったが、プロジェクトリーダーとして提案文書を検討したところ、まだ提案の元となっているAES17（ＡＥＳ側のデジタル測定方法）の記述不備がそのまま提案規格に残されているところが多々有ったので、ＮＣコメント以外に私の方からもコメントを出した。

審議内容

今回の会議ではＮＣコメントと私のコメント両方に関して検討を行った。

結論１：ＮＣコメントに関して → 基本的に採用。

結論２：私のコメントに関して

指摘した問題点の中に、今回の提案文書の基となるＡＥＳ17自身が問題を含んでいることがAES側でも気が付いているものが有って、現在彼らは修正中であった。

これらに関してはAES17の修正に応じた修正をPT61601-3CDに加える。

測定方法の中にコンシューマー市場では使わない方法が含まれていて、それに関しては私のコメントに誤解が有り、彼らの説明で了解した。

今後の予定

７月には予定通りＣＤＶを提出する為に７月当初にはＣＤＶのドラフトをＡＥＳ側から送ってもらうことにした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3／TC100-③（事務局記入）　　様式 4

提出日：2006 年 6 月 5 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：蔭山　惠　　報告書作成者氏名：　市村　元　（会社名）ソニー（株）

会議名（半角）	区分	組織番（TC/SC/TA）	TC100/ TA4 （半角）
MT61937-1	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	圧縮デジタルオーディオインタフェース　パート1：　一般
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	

開催期日	2006 年 5 月 20 日 ～　2006 年 5 月 21 日	
開催場所	（国名）フランス	（都市名）パリ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	市村　元	幹事国　韓国
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 日本、アメリカ、イギリス、参加人数（10）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 蔭山(松下電器)、江島(松下電器)、由雄(Pioneer)、○市村(Sony)、藤森(Yamaha)、古川(Kenwood)、川村(松下電器)、稲永(Sony)	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

圧縮デジタルオーディオフォーマット毎にメンテナンスが行われてきた各パートの改訂内容を反映させるため、また新たに追加された圧縮デジタルオーディオフォーマットを統一的に反映するために本規格の改訂作業は必要である。現在ＭＣＲが回付されたところであり、早期にＣＤＶ文書を確定させるため MT61937-1 Ed2.0 の会議をプロジェクトリーダーとして開催しこれまでのＭＴ活動の確認、現行ドラフト内容レビュー、スケジュール決定を行った。また、MT61937-2 Ed2.0 と整合性を保つために合同会議を開催し双方のプロジェクトより、意見交換を行った。

現行ドラフトのレヴューにおいては以下のの２点が指摘された。（1）FORWARD におけるシンボルフリケンシーに関する記述が内容と一致していない。（2）Bibliography 内にリストされている文書が不適切。さらに MT61937-2 Ed2.0 との合同会議においては（3）61937-1 と 61937-2 のドラフトにおいてデータタイプの呼称が異なっている、という指摘がなされた。

これらの指摘に対して、（1）に関しては文書改訂案を提示、承認、（2）に関しては、必要のない文書をリストから削除することを提案、承認、（3）に関しては、61937-2 のほうに注記を入れることで合意した。

これらの変更を反映したドラフトを作成し MT メンバーに配布、確認後 CDV 候補文書としてＴＳへ提出することとした。さらにスケジュールとして CDV が２００６年6月、FDIS が２００７年2月、IS が２００７年5月の予定にて承認された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（(三井住友海上別館ビル)　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：156-3／TC100-④　（事務局記入）　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2006 年 5 月 30 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：蔭 山　恵　報告書作成者氏名：　江島 直樹　（会社名）松下電器産業株式会社

会 議 名（半角）	区　分	組織番（TC/SC/TA）	TC100/TA4 (半角)
MT 61937-2	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	圧縮ﾃﾞｼﾞﾀﾙｵｰﾃﾞｨｵｲﾝﾀﾌｪｰｽ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開 催 期 日	2006 年 5 月 20 日 ～ 2006 年 5 月 21 日		
開 催 場 所	（国名）フランス	（都市名）パリ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	江島 直樹	幹事国　韓　国	
参 加 国 及び 参 加 人 数	3ヶ国、主な国名 米国、英国、日本、参加人数（10）		
日 本 人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 蔭山 惠（松下）、○江島 直樹（松下）、川村 明久（松下）、市村 元（ソニー）、由雄 淳一（パイオニア）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景・目的：

本規格の改訂は、圧縮デジタルオーディオフォーマット毎にメンテナンスが行われてきた各パートの改訂内容を反映し、また新たな圧縮デジタルオーディオフォーマットの追加記載が必要である。　この改訂で追加される新オーディオフォーマットは新たな高密度ディスク機器などでも採用が期待される状況にあり早急な国際規格化が望まれ、日本としても円滑に規格化を推進すべきである。

現在ＭＣＲが発行され、ＣＤＶ文書を検討中である。重要課題としては、データタイプの残数不足がある。　新規なフォーマット追加に対し今後の備えが不足している。

課題を解決するためのデータタイプの拡張方法についてＰＬ案を提示し現行規格との互換問題などを慎重に検討することを目的とした。　また、MT 61937-1 との整合性をとるため、ジョイントミーティングを開催して一貫性をキープすることも重要である。

成果：

ＭＣＲ発行後からメールベースで検討してきたWD文書案についてレビューし内容を確認した。　特に課題であるデータタイプの拡張方法については、残っている未使用領域のフィールド構造を変えて bit 拡張しリザーブ領域を拡大する案について検討した結果、全会一致の賛同が得られた。また、現行規格との互換問題などを慎重に検討したが、特に懸念事項は無く問題ないとの結論を得た。これらの記載を分かり易く正確にするため、データタイプの表を分割して概要構造と詳細割り付けの二つとした。 IEC 61937-1 および IEC 61937-2 のジョイントミーティングではデータタイプのフィールドの呼称を合わせるべきか等について検討した結果、注記を付して明確化するのが適切との合意を得た。

今後：

SMPTE 規格との整合性で不明な点があるため、ＰＬからエキスパートへ問い合わせする。　その他の修正を加えてメンバー間で回付した後、CDV 候補文書としてＴＳへ提出することとした。

次回開催：

MT 61937-1,2：2006 年９月（ベルリン）CDV 回付中であるがコメント対応など必要に応じて開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)

（社）電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：156-3／TC100-⑤（事務局記入）

様式 4

提出日：2006年 5月 29日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：蔭山　恵　　報告書作成者氏名：　由雄　淳一　（会社名）パイオニア（株）

会議名（半角）	区分	組織番 (TC/SC/TA)	TC100/TA4 (半角)
MT60958-1	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他	名　称（日本語）	デジタルオーディオインタフェース
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	

開催期日	2006年 5月 20日 ～ 2005年 5月 21日	
開催場所	（国名）フランス	（都市名）パリ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	由雄　淳一	幹事国　韓国
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日本, 米国, 英国、参加人数（10）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 蔭山, 江島, 川村(松下), 市村(ソニー), 古川(ケンウッド), 藤森(ヤマハ), ○由雄(パイオニア)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景，目的：
新たな光ディスク, デジタル放送などに用いる圧縮オーディオ信号を, 新たなインタフェース規格において IEC60958 コンフォーマント規格で伝送するために必要な改定をおおもとの IEC60958-1 とその関連規格について行うこと。

成果：
1．IEC60958-1 改定の DC により作成した WD を審議し内容を確認した，論議を反映し編集後 CD 発行に進める。技術内容はコンフォーマント規格に関してストリームチェンジ方法，また IEC60958-3 ですでに改定したコネクション，（光）コネクタ記述分部を移動する，など。
2．IEC60958-3 の次期改定内容を論議し，コンフォーマント規格による新たな圧縮オーディオ信号のためのサンプリング周波数，その他 c-bit 拡張で伝送する新たな情報の拡張を審議した。暫定結果を報告し関係メンバーの意見を求める。
3．IEC61883-6 に関し IEC60958-3 の高速伝送との関係を確認した。IEC61883-6 は IEC60958-3 をそのまま引用することとし必要な規定は全て IEC60958 側で行うことを確認した。
4．IEC60958-4 は今後 AES3 がマルチパートに改定されそれを反映する，IEC60958-1 へのコネクション，コネクタ分部の移動は行わず IEC60958-4 は AES3 との関係を主とすることを確認した。

問題点：
IEC60958-1 は関連する規格全てのおおもとであるため, 今後も関連規格との連携を行い進めていくことを留意する。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 新版ｅ様式)